

【ポスター発表】

9月13日(金)の5、6時間目に73回生(2年生)によるゼミごとのポスター発表会が行われました。各ゼミによる努力の成果、レベルの高さが強く感じられる発表となっていました。

〈各ゼミによる発表概要〉

物理ゼミ

小水力発電の効率の良い羽根の形状や、翼の最大キャンバーの位置と揚力の関係といった研究をしていた。ポスターが英語で書かれていて、発表も全て英語で行うというところもあった。生活、住居をよりよくするための研究が行われており実用的であった。物理学が好きな人にとっては、とても良いゼミだと感じた。

化学ゼミ

触媒効果やと安全な物質での抗菌などについて発表していた。反応速度定数を求めるなど難しい内容から身近な食品を使った研究までも行っており、私たちの生活に確実に生かせるような研究を行っていた。今まで疑問に思っていた化学の不思議を自力で解決し発展させていくこともできるゼミだと感じた。

生物ゼミ

カニや昆虫などの生物や、人間の記憶力についてなど幅広い研究をしていた。生物は生きているため、不確定要素が多く研究が困難な部分が多いようだった。しかしその分、その困難をクリアする方法や、研究結果・考察はとても興味深かった。最近ではバイオマスなどが注目されているため、実用的な研究も可能だと感じた。



地学ゼミ

風や天体、隕石そして液状化現象についての研究を行い、それに関する発表が行われた。地球上で起こるあらゆる事象について学んでおり、観測が難しいものでも工夫することで研究を進めていた。体積といったデータの表現方法も考えており、地学だけでなくほかのことについても広く学べるゼミだと思った。

数学ゼミ

より平等なトーナメントの組み方、プロ野球の年俸は貢献度に見合うものなのかといった身近な話題や、解読されないパスワードを作るといった身近な問題への対処法を数学的目線で研究していた。自分が気になる問題について数学を用いて考えられるので、数学が好きな人にとってよいゼミだと感じた。

情報ゼミ

インスタグラムの“いいね”の数を増やす方法や、通信速度を上げる方法など、現代の情報社会を象徴するテーマ選択がなされ、そのテーマを、数的根拠に基づいて考察していた。自分たちにとって身近でこれからの時代を生きていく上で必要不可欠な研究内容を扱っており研究に対する意欲を強く持てるゼミであると思う。

国語ゼミ

小説や映画、言葉など様々な視点から研究を行っていた。課題設定が比較的幅広い分野で可能であるため、自分の興味に沿った研究ができる点が魅力である。文系のゼミだと思われがちだが、理系文系問わず、自分の得意なことや好きなことをそのまま研究に生かすことができる。



地歴ゼミ

武将や戦後の日本についてなど、歴史の一部分を切り取った研究をしていた。歴史の研究は既存の事実を調べるものである。実験のような細かい再現や、細かい数値を得ることで明確な答えを知るのは困難である。そのため研究は、文献を参考にしたものや、時代背景をもとにした推察が主であった。

公民ゼミ

震災後の宮城県の活性化や災害時の SNS によるデマ拡散防止などといったテーマで発表していた。現代社会における問題点を提示しそれを改善、防止するための術、内容を研究して身近な内容であるが故に深く地域に寄り添った内容となっていた。日本の問題に深く切り込んで深く知ることができるよい機会となると思う。

英語ゼミ

発表は英語で行われた。英語の学習法についてから海外と日本の文化の違いなど様々で国際的な内容を含んでいれば自由なテーマ設定ができるためどんなことでも研究対象になるという魅力がある。求められるのは完璧な英語力ではなく聞き手にいかに伝えていくかであるため、英語力だけでなくプレゼン力も向上するだろう。

保体ゼミ

疲労回復や周辺視野などの体育やスポーツ関連の研究を行っていた。甲子園の過密日程についての研究のように時事問題を研究テーマにしている班もあった。多くの班が学習面の実験を行っていた。また、体育の分野で数値データの出る実験を行うことは難しいと感じた。

音楽ゼミ

音楽に関する幅の広い実験を行っていた。一例としては流行した音楽の共通性があるのか研究したもの。また、音楽を勉強と関連付け、テスト中にテンポの違う音楽を流すことで正答率や、解く時間に差が生じるのかについて研究していた班もあった。とてもユニークで興味が湧くような内容ばかりだった。

家庭ゼミ

災害の時に美味しく非常食を食べる方法についての研究を行っていた。災害時にはきれいな水を得ることも困難な可能性があるため、汚い水からでもおかゆを作るといったことだった。水の浄化や調理も含め、身近で実用的な研究を行っていた。

災害研究ゼミ

様々な自然災害における避難や二次災害の防止等について、幅広く研究していた。災害は日常と密接であるため、身構える必要なく、比較的 research しやすいと思われる。理系、文系の研究が混ざっているため、文理にとらわれず、共に研究ができる数少ないゼミの一つだといえるだろう。

編集後記

ゼミについて詳しく知ることができたゼミ見学会だったと思います。また、ポスターのまとめ方や、発表の方法についても学べたと思います。これは生物の発表にも通ずるものがあったのではないのでしょうか。これから学術研究はゼミ活動に入っていきます。自分のやりたい研究を行えるようゼミを選びましょう。